

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成21年度採択）

事後評価

番号	研究名	研究代表者	評価
21-2	地域 ITS 技術を用いた車線・道路幅員減少区間等における安全かつ円滑な走行支援手法の研究開発	高知工科大学 教授 熊谷 靖彦	B
<p><研究の概要> ※成果報告レポートより引用</p> <p>1.5 車線的道路整備を計画するにあたって、道路交通の安全および円滑を図るため、道路や交通特性、或いはドライバ属性や地域特性、更には「走行支援システム」等の ITS を考慮した整備のあり方と「交通流シミュレータ」による整備の事前、事後の評価ツールの研究開発を行う。</p> <p><事後評価結果></p> <p>高速道路における片側通行規制時の安全性防止策や研究成果の他地域への展開等については、さらなる検討が必要なものの、県レベル自治体との十分なコミュニケーションがあり、システム開発、実験、評価の全てのステップで、現場のニーズに的確に対応するなど、中山間地道路を中心に優れた成果を得ていることから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none"> 研究成果のさらなる普及促進に向けて、初期費用及び運用費用が低いことによる適用性の高さをよりアピールするとともに、研究成果を他の地域やアジア諸国に展開する方策について検討いただきたい。 他県への展開を図るためにも、1.5 車線の整備を行う場合、どのような路線に、どのようなサービスを確保するため、導入を推奨するのか分かりやすく取りまとめていただきたい。 高速道路暫定2車線区間を対象とするシステムに関しては、情報提供に許容される遅れを考慮して、携帯電話等の通信回線の利用も検討できるのではないか。 狭隘道路に支援システムが導入された場合のメンテナンス体制などについて検討いただきたい(例:観光地における地元民間企業への委託など)。 研究内容を関係者がわかりやすく理解できるよう、報告書の記述方法について再考いただきたい。 中山間地の狭隘道路の適用では、効果として時間損失も重要であるが、長期にわたる実証を通じた利用者の意識調査についても留意いただきたい。 研究期間中に別分野の研究項目が追加となり、苦心された跡が伺える。高速道路については課題抽出に留まっており、全体として研究成果は十分とまではいえない。今後の研究継続が期待される。 他章と比較した際の第2章の重要性が低く、特に第2章と第3章が一見独立しているように見える。また資金面や内容面からも、第2章は相対的に見てほとんど力点が置かれていないように見受けられる。 研究の精度を上げることと、実用性の追求とのバランスをとることが難しいことが判った。 			